

計画の名称	安全で安心して暮らせるまちづくり		
計画の期間	平成24年度 ～ 平成28年度（5年間）	交付対象	座間市
計画の目標	自然・歴史・文化と調和した暮らし快適、安全で安心の魅力あるまちづくりを目指す。		

計画の成果目標（定量的指標）	・道路の整備状況の満足度を１７％（H23）から１９％（H28）に増加 ・災害に対する安全性の満足度を１３％（H23）から１８％（H28）に増加 ・耐震性貯水槽の確保量を５（ℓ/人）から８（ℓ/人）に増加 ・1号市街地の建物不燃化率を８０％（H23）から８２％（H28）に増加									
----------------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--

定量的指標の定義及び算定式					定量的指標の現況値及び目標値				備 考		
					当初現況値	中間目標値		最終目標値			
					(H23当初)			(H28 末)			
					市民アンケートにより、道路の整備状況に関する満足度を集計	17%	－				19%
					市民アンケートにより、災害に対する安全性の満足度を集計	13%	－				18%
耐震性貯水槽（６０m3）設置数から人口一人当たりの貯水量を推計	5ℓ/人	－		8ℓ/人							
都市計画基礎調査から建物不燃化率を集計					80%	－		82%			
全体事業費	合計 (A+B+C)	2759.8百万円	A	2759.8百万円 (うち提案事業分233百万円)		B	0百万円	C	0百万円	効果促進事業費の割合 (A（提案分）+C)/（A+B+C)	8.4%

事後評価										
○事後評価の実施体制、実施時期										
事後評価の実施体制					事後評価の実施時期					
					平成30年度に実施					
社会資本総合整備計画の事後評価として座間市で実施					公表の方法					
					評価完了後、市のホームページへ掲載					

1．交付対象事業の進捗状況															
交付対象事業															
A1 基幹事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名 (事業個所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	H24	H25	H26	H27	H28	全体事業費 (百万円)	備 考
1-A-1	都市再生	一般	座間市	直接	座間市	座間地区都市再生整備計画事業	道路、耐水性貯水槽等、A=1,758ha	座間市						949.0	
1-A-2	住宅	一般	座間市	間接	組合	小田急相模原駅前西地区市街地再開発事業	商業、住宅等 A=0.4ha	座間市						1810.8	

B 関連社会資本整備事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名 (事業個所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	H24	H25	H26	H27	H28	全体事業費 (百万円)	備 考

番号	一体的に実施することにより期待される効果														

C 効果促進事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名 (事業個所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	H24	H25	H26	H27	H28	全体事業費 (百万円)	備 考

番号	一体的に実施することにより期待される効果														

2．事業効果の発現状況、目標値の達成状況

Ⅰ 定量的指標に関する 交付対象事業の効果の発現状況		・ 地域内の生活道路を中心とした道路整備を確実に実施したことで、道路整備の満足度は目標値を上回った。 ・ 耐震性貯水槽の設置が確実に実施され、目標数値を達成した。			
Ⅱ 定量的指標の達成状況	指標①（市民アンケートにより、道路の整備状況に関する満足度の割合）	最終目標値	19%	目標値と実績値に差が出た要因	
		最終実績値	24%		
	指標②（市民アンケートにより、災害に対する安全性の満足度の割合）	最終目標値	18%	目標値と実績値に差が出た要因	昨今頻発する災害により市民の災害に対する不安感が増大していることが、目標値に達しなかった要因と考えられる。
		最終実績値	17%		
	指標③（耐震性貯水槽（60m3）設置数から推計した人口一人当たりの貯水量の値）	最終目標値	8 ^{リットル} ／人	目標値と実績値に差が出た要因	
		最終実績値	8 ^{リットル} ／人		
	指標④（都市計画基礎調査から集計した建物不燃化の割合）	最終目標値	82%	目標値と実績値に差が出た要因	市街地再開発事業が進行中で、実績値としては計測できないため、現況値のまま据え置いたためである。
		最終実績値	80%		
Ⅲ 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 （必要に応じて記述）		・ 生活道路の歩道整備、道路改良等を行った結果、市民の交通の安全性、快適性が図られつつある。 ・ 耐震性貯水槽の設置、避難所機能の確保等により、地域防災機能の充実が図られつつある。			

2．特記事項（今後の方針等）

次期社会資本整備計画においても1号市街地(計画的な再開発が必要な市街地)における不燃化率の促進を図るとともに、新たに目標を設定し、都市機能の更新を行うことによる人口増加、宅地内の公共空地等のオープンスペースの確保による拠点機能の向上を目指しながら、快適、安全で安心の魅力あるまちづくりを推進させる。

(参考図面) 市街地整備＋地域住宅支援

